

発掘遺構から 読み解く古代建築

奈文研 第7回東京講演会

2015年10月24日 | 土 |

有楽町朝日ホール

(東京都千代田区有楽町 2-5-1 有楽町マリオン11F)

午前10時～午後4時

入場無料(要・参加申込み) 定員600名

※講演資料集は有償(1部500円)で販売します。

お申し込み・お問い合わせ先

シンポジウム事務局(株式会社クバプロ内)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-15 UEDAビル6F

TEL: 03-3238-1689 FAX: 03-3238-1837

E-mail: nabunken2015@kuba.jp

http://www.kuba.co.jp/nabunken2015/

10:00~10:05

開会挨拶

松村恵司(所 長)

10:05~10:50

なぜ建築史の研究者が発掘現場に?

西田紀子(飛鳥資料館学芸室 研究員)

10:50~11:35

発掘遺構と古代建築をつなぐ

西山和宏(都城発掘調査部 主任研究員)

昼休憩

12:45~13:30

古代建築の復原の手がかり

—平城宮朱雀門と第一次大極殿—

鈴木智大(都城発掘調査部遺構研究室 研究員)

13:30~14:15

東西楼は入母屋か寄棟か

—平城宮第一次大極殿院の復原にむけて—

海野 聡(都城発掘調査部遺構研究室 研究員)

休 憩

14:30~15:15

山田寺倒壊回廊が語る古代建築史

箱崎和久(都城発掘調査部遺構研究室 室長)

15:15~16:00

出土部材をしらべ、まもり、つたえる

番 光(文化遺産部建造物研究室 研究員)

16:00~

閉 会

※講演者等は変更することがありますのでご了承ください。

<http://www.kuba.co.jp/nabunken2015/>